

親切運動の取組について

学校名 高岡市立南条小学校
児童数 298名

1 親切運動の取組の紹介

(1) 全校で取り組む宝物探し

自他のよさを「宝物」とし、互いにそれを認め合うことを重点目標としている。それを受け、児童会でも「みんなで思いっきりチャレンジ 協力して笑顔をさかせよう ～見つけよう 自分とみんなの宝物～」の年間目標を掲げ活動している。

「あいさつ」「気持ちよく過ごす」「チャレンジ作戦（学級ごとの目当て）」の3つの項目について、毎月自己評価を行っている。

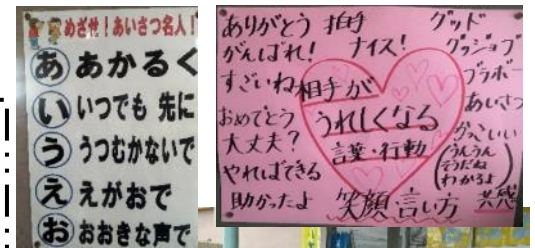
また、あったか言葉について各学級で話し合い、見つけたあったか言葉を教室内や入口に掲示することで日常的な意識付けを図っている。



(2) あいさつ運動

児童会を中心に、あいさつ運動を行っている。明るく、いつでも先に、うつむかないで、笑顔で、大きな声であいさつができるよう、毎朝呼びかけている。

また、11月には、中学校と合同で挨拶運動を行い、さわやかな挨拶を呼びかけた。中学生の挨拶の仕方に感銘を受けあいさつの声が大きくなるとともに、活動の中で生まれた年上の人に対する憧れの気持ちが、子供たちの活動意欲の高まりにつながった。



(3) 花いっぱい運動 ～地域の方と共に～

栽培委員会を中心に、地域の方の協力を得て、花いっぱい運動に取り組んでいる。学校花壇の整備をするとともに、学校前の歩道をフラワーロードとしてプランターを設置している。

花壇のデザインは子供たちから募集したものである。栽培委員やボランティアの子供たちが毎朝、花摘みをしたり水やりをしたりしている。

植物の小さな変化を地域の方と共有したり、交流したりできる機会となっている。



(3) 聴覚支援学校との交流

校区にある高岡聴覚総合支援学校と年間2回、交流している。在籍学年の学級で共に学習したり活動したりしている。交流を繰り返すことで子供たちは、支援学校の友達を同じ社会に生きる人間として正しく理解しようとしている。また、相手のためにできることを考え共に生きていこうとする態度を育てる上での基盤となっていると感じる。

2回の交流を経た後、年賀状の交換を行うことも子供たち同士の意識を高める契機となっている。



2 親切運動に取り組んで

(1) 成果

- 学校全体で「宝物探し」をキーワードにして取り組むことで、教員は人との関わりを重視した学習を仕組むとともに、子供たちも相手意識をもって活動することができた。
- 子供たちの願いやアイデアを大切に活動を計画したことで主体的に取り組むことができた。活動の中で、「ありがとう」「すごいね」などと互いに伝え合うことで、子供たちの自己有用感が高まっている。

(2) 課題

- 今後も子供たちの主体性を大切にながら、自分のよさを生かす気持ちを高めていきたい。